

ESD ユネスコ世界会議交流セミナー報告書

団体名 地球憲章アジア太平洋・日本委員会

【ESD ユネスコ世界会議の成果】

地球憲章アジア太平洋・日本委員会は、11月11日（火）の14:30から名古屋国際会議場131/132の部屋で「ESDにおける地球憲章の役割、成果及び課題」と題した国際シンポジウムを開催した。会場の定員をはるかに超える160名の参加者を得て、竹内恒夫・地球憲章アジア太平洋・日本委員会事務局長（名古屋大学大学院教授）の進行の下、広中和歌子・地球憲章アジア太平洋・日本委員会代表の地球憲章の経緯、意義などに関する講演、ミリアン・フェレラ・地球憲章インターナショナル事務局長、葉欣誠・台湾環境省副大臣、エド・ハイリック・サンチェス・Okinawa Ocean Culture & Environment Action Network、功刀達朗・地球憲章アジア太平洋・日本委員会理事の各氏から、それぞれ地球憲章の世界各地の取組、台湾のESDの状況、沖縄での取組、そして、地球憲章のまんが版についての報告があった。



特に、ミリアン・フェレラ・地球憲章インターナショナル事務局長の講演は、地球憲章の生態系・生命系への配慮、社会的・経済的公平性、民主主義、平和・非暴力といった持続可能な未来のための価値・原則という「レンズ」から物事を見ると、何が持続可能でないかが浮かび上がってくるといった内容であり、こうした価値・原則の習得・共有化の重要性については、ESD ユネスコ世界会議で採択された「愛知・名古屋宣言」に色濃く反映されている。なお、ミリアン・フェレラ事務局長は、ESD ユネスコ世界会議のクロージング・プレナリーにおいても、今後の地球憲章の展開についてスピーチした。



また、功刀達朗・地球憲章アジア太平洋・日本委員会理事は、世界ではじめて地球憲章のマンガ版（文・漫画：山井教雄氏）を作った。これには、ミリアン・フェレラ事務局長も大いに感激していた。

【今後の展望】

昨年のユネスコ総会で採択され、名古屋で正式に公表された Global Action Program には、例えば、「ESD は、現在と将来世代のために、持続可能な開発に貢献し、環境保全及び経済的妥当性、公正な社会についての情報に基づいた決定及び責任ある行動を取るための知識、技能、価値観及び態度を万人が得ることを可能にする。」とあるように、随所に「地球憲章」の価値や原則が反映されている。また、名古屋でまとめた「愛知・名古屋宣言」にも、パラグラフ 8, 9, 10 あたりに「地球憲章」の価値や原則がたくさん盛り込まれた。



こうしたことから、地球憲章アジア太平洋・日本委員会は、ESD のさらなる展開に向け、「地球憲章」の共有化に一層取り組んでいく。